

## レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

2025年 4月 1日

中国生コンクリート株式会社 広島工場  
広島県広島市南区出島三丁目2番2号

配合計画者名 上野 和徳

工事名称															
所在地															
納入予定時期															
本配合の適用期間		3月1日～5月31日、10月1日～12月10日 左記以外の期間については備考欄に記述。 (標準配合)													
コンクリートの打込み箇所															
配 合 の 設 計 条 件															
呼び方	コンクリートの種類による記号		呼び強度		スランプ又はスランプフロー cm		粗骨材の最大寸法 mm			セメントの種類による記号					
	普通		24		8		40			BB					
指定事項 (必須)	セメントの種類		呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法		呼び方欄に記載								
	骨材の種類		使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法		BB			-					
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分		使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量		-			kg/m <sup>3</sup>					
	舗装コンクリートの強度試験方法		-		コンクリートの温度		-			°C					
	水の種類		使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限		60%								
	混和材料の種類及び使用量		使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限		-			kg/m <sup>3</sup>					
	塩化物含有量		0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限		-			kg/m <sup>3</sup>					
	呼び強度を保證する材齢		28日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量		-			cm					
	空気量		4.5%												
使 用 材 料															
セメント	生産者名 株式会社トクヤマ		密度 g/cm <sup>3</sup>		3.04		Na <sub>2</sub> O eq %		-						
混和材①	製品名		-		種類		-		密度 g/cm <sup>3</sup>		-				
混和材②	製品名		-		種類		-		Na <sub>2</sub> O eq %		-				
骨材	No.	種類	産地又は品名		アルカリシリカ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲%				
					区分 試験方法				絶乾 表乾						
細	①	砕砂	大分県津久見市上青江		A モルタルバー法		5以下	3.04	2.66	2.67	7.0±2.0				
骨	②	高炉スラグ骨材	広島県福山市鋼管町/BFS 5		-		5以下	2.55	2.74	2.76	-				
材	③	-	-		-		-	-	-	-	-				
粗	骨	①	砕石		大分県津久見市上青江/砕石1505		A モルタルバー法		15～5	60	2.70	2.71	1.5±1.0		
			②		砕石		大分県津久見市上青江/砕石2010		A モルタルバー法		20～10	61	2.70	2.71	1.5±1.0
			③		砕石		広島市安佐北区安佐町/砕石4020		A モルタルバー法		40～20	63	2.70	2.71	1.0±1.0
材	④	-	-		-		-	-	-	-	-				
混和剤①	フローリックSV10L		種類		AE減水剤(標準形I種)		-		Na <sub>2</sub> O eq %		1.0				
混和剤②	製品名		-		-		-		-		-				
混和剤③	製品名		-		-		-		-		-				
細骨材の塩化物量		①0.001% ②0.001%		水の種類		上水道水・上澄み水		目標スランプ 固形分率		-%					
回収骨材の使用法		細骨材		粗骨材		-		スランプ水の使用方法		-					
配 合 表 kg/m <sup>3</sup>															
セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤				
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③		
275	-	-	159	591	262	-	317	317	423	-	1.38	-	-		
水セメント比		57.9%		水結合材比		-%		細骨材率		44.8%					
備考	骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。		骨材混合比		細骨材①:②		70.0:30.0								
	修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ修正する。		(容積混合)		粗骨材①:②:③		30.0:30.0:40.0								
夏期 6月1日～9月30日: +20% 冬期12月11日～2月29日: -20%															

# 配合計算書

## 配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラング <sup>°</sup> 又はスラング <sup>°</sup> フロー	粗骨材の最大寸法	セメントの種類による記号
	普通	24	cm 8	mm 40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	-		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び又は水結合比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28 日		流動化後のスラング又はスラングフローの増大量	- cm
空 気 量		4.5 %			
(1) 変動係数 (v)			当工場の実績により v = 10 %		
(2) 配合強度 (m)					
$m_1 = \frac{0.85 \cdot SL}{1 - \frac{3 \cdot V}{100}} = 29.1 \text{ N/mm}^2$			$m_2 = \frac{SL}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 30.0 \text{ N/mm}^2$		
			よって m = 30.0 N/mm <sup>2</sup>		
(3) 水セメント比 (W/C)			$m = -16.6 + 27.0 \times C/W$ $W/C = 27.0 \div (30.0 + 16.6) \times 100 = 57.9 \% \leq \text{【60\% (上限値)】}$ $\therefore W/C = 57.9 \%$		
(4) 単位水量 (W)			当工場の実績により W = 159 kg/m <sup>3</sup>		
(5) 単位セメント量 (C)			$C = W \div (W/C) \times 100 = 159 \div 57.9 \times 100 = 275 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 275 \div 3.04 = 90 \text{ L/m}^3$		
(6) 空気量 (A)			$A = 4.5 \% \times 1000 = 45 \text{ L/m}^3$		
(7) 単位粗骨材量 (G)			当工場の実績により かさ容積 = 0.619 m <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> 実積率 = 63.0 % $G_v = 0.619 \times 1000 \times 63.0 \div 100 = 390 \text{ L/m}^3$		
			$G_1 = G_v \times 30.0 \% \times \text{表乾密度} = 390 \times 30.0 \% \times 2.71 = 317 \text{ kg/m}^3$ $G_2 = G_v \times 30.0 \% \times \text{表乾密度} = 390 \times 30.0 \% \times 2.71 = 317 \text{ kg/m}^3$ $G_3 = G_v \times 40.0 \% \times \text{表乾密度} = 390 \times 40.0 \% \times 2.71 = 423 \text{ kg/m}^3$		
(8) 単位細骨材量 (S)			$S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 684 = 316 \text{ L/m}^3$		
			$S_1 = S_v \times 70.0 \% \times \text{表乾密度} = 316 \times 70.0 \% \times 2.67 = 591 \text{ kg/m}^3$ $S_2 = S_v \times 30.0 \% \times \text{表乾密度} = 316 \times 30.0 \% \times 2.76 = 262 \text{ kg/m}^3$		
(9) 細骨材率 (s/a)			$s/a = S_v \div (G_v + S_v) \times 100 = 44.8 \%$		
(10) 単位混和剤量 (Ad)			$Ad = C \times \text{添加率} = 275 \times 0.50 \% = 1.38 \text{ kg/m}^3$		

## 配 合 表      kg/m<sup>3</sup>

セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
275	-	-	159	591	262	-	317	317	423	-	1.38	-	-
水セメント比	57.9 %		細骨材率	44.8 %			骨材混合比 (容積混合)	細骨材①:② 粗骨材①:②:③			70.0:30.0 30.0:30.0:40.0		
備考													